



今週の玄米入荷情報

- 魚沼コシヒカリ
- 新潟黒川コシヒカリ
- 新潟佐渡コシヒカリ
- 福島会津コシヒカリHG
- 富山コシヒカリ
- 千葉コシヒカリHG
- 秋田あきたこまち
- 岩手ひとめぼれ前沢
- 宮城ひとめぼれ登米特栽
- 千葉ふさおとめ
- 群馬あさひの夢
- 佐賀夢しずく特栽

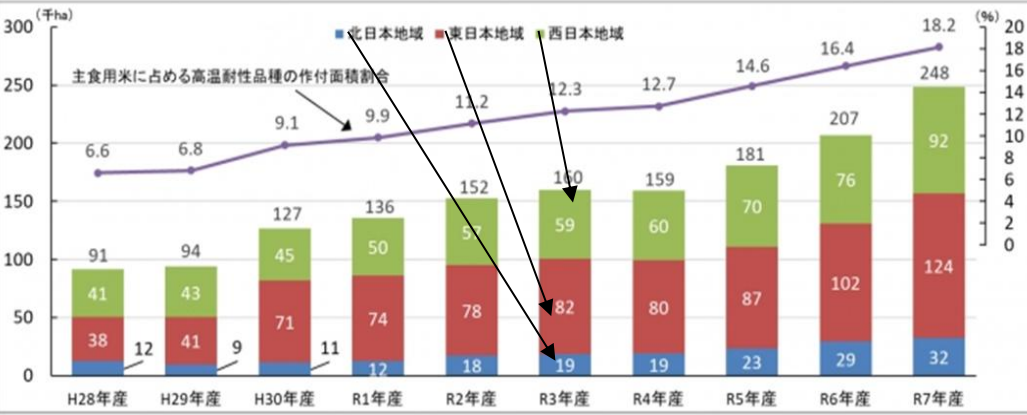


令和7年産の水稻の高温耐性品種の作付面積は
24万800haで前年に比べて4万2000ha増。

(農水省3/27地球温暖化影響調査レポート)

主食用作付面積136万7000haに占める割合は18.2%。
全国ペースで見ると、作付面積の3~4割で白未熟粒の影響を確認しており、これは6年産並、5年産(5割)以下の水準。
エリア別では、東日本12万4000ha(前年比2万2000ha増)、西日本9万2000ha(前年比1万6000ha増)、北日本3万2000ha(前年比3000ha増)

○ 高温耐性品種の作付面積及び主食用米に占める割合の推移 (北・東・西日本)



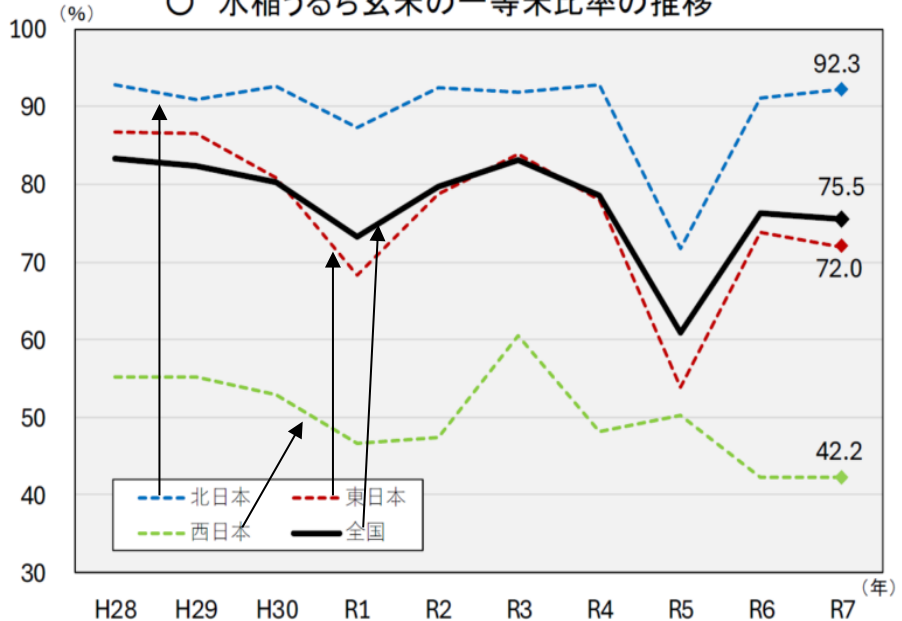
佐賀県が6割超でトップ

- 作付面積の割合が高い上位5県
- 佐賀県66.9%(同10.6ポイント増)
- 長崎県49.8%(同2.5ポイント増)
- 島根県が47.3%(同2.6ポイント増)
- 福井県が44.6%(同1.5ポイント減)
- 鳥取県が40.8%(同1.5ポイント増)

■ 作付面積の上位品種

- 「きぬむすめ」2万5103ha(同9.2%増)
- 「とちぎの星」1万9251ha(同61.0%増)
- 「つや姫」1万8842ha(同4.7%増)
- 「にじのきらめき」1万5669ha(同158.3%増)
- 「ふさこがね」1万3900ha(同21.9%増)
- 「にじのきらめき」は6000haから1万5000haへと25年産で急拡大。

○ 水稻うるち玄米の一等米比率の推移



25年産米の一等米比率(25年12月31日現在)は全国で75.5%。2025年の日本の年平均気温偏差は+1.23℃で1898(明治31年)の統計開始以降、3番目に高い値となった。6月から8月の平均気温偏差は+2.36℃で1898年以降、最も高い値となった。